

今回初めてホストファミリーをさせて頂きました。

日本語以外の言語が話せない私達家族にとって、とても大きなチャレンジでした。なんとかなるだろうと思いつつ不安は大きかったです。受け入れまでにホストファミリーについての市民講座に参加しました。そこでは様々な体験を聞き、主催者の方からは「言葉が通じなくても日本の家族としてありのままの日常と一緒に過ごしたらいいよ」とアドバイスを頂きました。私の不安とは裏腹に子供たちは興味津々で「なにをしたらいいかな？」を一生懸命考えてくれました。家族のプロフィールや部屋に表示を作ったりと、言葉の壁がある分、距離を縮め快適に過ごしてもらうための準備をしました。

受け入れの実際は、会った瞬間からとてもフレンドリーでよく話してくれる男子高生で距離はすぐに縮みました。自宅に迎え入れてからは子供たちの興味があるものと彼のスキルがマッチしていたことが分かり、お互いがその状況に興奮し安心できた瞬間だったと思います。2日目はくらがり溪谷で鮎のつかみ取り、自己で調理したり川遊びを楽しみました。習字の体験では各それぞれ希望した字を書きました。男子高生が「最後にもう一枚書きたい」と言って「もとひろよりこありがとう」とひらがなで表現してくれたことはとても嬉しかったです。3日目は岡崎城やお茶を楽しんだり、アニメショップを巡りました。

男子高生はどこでも目を輝かせてくれてチャレンジ精神も強く色々な体験を6人で共有することができました。計画通りには行かず岡崎の花火は自転車に乗りながら花火を見ました。会場でゆっくり花火を見ることはできませんでしたが「exciting!」と、どの状況でも楽しんでくれたことで私達も「完璧でなくていい」をより感じることができました。体調を崩すことがあり、対応に慎重になることがありましたが一緒に過ごす中で彼は自分のことを沢山話してくれました。国を越えて色々な違いを感じることはありましたが、彼のチャレンジ精神に私もとても刺激を受けました。人と繋がるための言語を習得することは私の目標になりました。

最終日の夜は私達家族一人一人に手紙を書いてくれました。お互いがとても充実した4日間だったと思います。家族それぞれ感じ方は違うと思いますが、受け入れを通して「いつもと違うけどいつも通りのことで、いつも通りのことが感謝できる体験」をさせて頂きました。

改めて素敵な経験をさせて頂きありがとうございました。